

は し が き

まちづくりにおいては、情報公開、参加型計画立案、社会的合意形成等が課題とされています。更に、事業の計画と実施においては、景観や美しさへの配慮が課題となっています。

このようは背景の下、平成13年度に国土技術政策総合研究所において、「仮想現実とネットワークを用いたまちづくりのためのコミュニケーション・システムの開発」を実施しました。この技術開発は、平成5～8年度に、旧建設省建築研究所・土木研究所が共同で開発した、景観シミュレーションシステムを発展させたものです。開発したシステムにおいては、各種まちづくりの計画内容を、3次元データとして構築し、一般市民でも理解しやすい表現で立体的表示を行うと共に、このデータをインターネットを通じて配信し、これに対する意見や提案を、文書としてだけでなく、画像や3次元データとしても受け付け、双方向・対話型のコミュニケーションを支援することを可能にしています。

本資料は、このシステムの導入方法、利用方法に関するマニュアルをとりまとめたものです。まちづくりの内容として、これまで実際に適用された事例としては、市街地再開発、既成市街地における土地区画整理事業、連続立体交差事業などがあり、利用者としては、事業主体である都県・市町、及び事業関係者、一般市民などが関係してきました。実用の便のために、それぞれが利用する機能に分けてマニュアルを作成しました。今後の用途としては、より広く空間・景観が問題となる公共事業一般や、必ずしも事業や変化を伴わない、空間・景観に係る情報公開一般にも応用が可能です。

本システムは、国立研究機関により、国費で開発されたものであることから、インターネットや、CD-ROMなどの媒体で、フリーウェアとして配布することとしています。導入方法・利用方法を中心に解説した本書に引き続き、研究者・プログラマ等のために、システムの構成・機能等について別途出版を準備しております。また、本研究の成果をベースに現場の運用支援・技術開発を実施しております。

国土交通省国土技術政策総合研究所